

1. 学術集会, 学術講演会等の開催

1) 年次学術集会

第53回学術集会(会長:真下 節)として2006年6月1日(木)~3日(土),場所:神戸ポートピアホテル.テーマ:「麻酔科学のあらたな発展分野を考える」.参加者数は,6554名,一般講演1100題,特別講演4題,招請講演18題,教育講演7題,若手研究講演23題,シンポジウムおよびパネル25題,ワークショップ7題を行った.今年度から学術集会を会長主体の運営から日本麻酔科学会の運営とした.学術集会は盛況であり,経費の大幅削減につながったが,事務窓口,参加受付,電子抄録システム,ホームページ(英語版のタイムテーブルと演題名,タイトル名の掲載を含む),海外からの招請講演のあり方,ワークショップの充実が今後の課題とされた.日本麻酔科学会賞受賞講演(山村記念賞,若手研究者奨励賞),総務委員会社会保険専門部会企画,安全委員会企画,麻酔台帳の説明会,医学生・スーパーローター招待企画(広報委員会),AHA-ACLSインストラクターコース(関連領域委員会),教育委員会リフレッシュャーコース(教育委員会)を行った.

2) 支部の学術集会

各支部で合計8回の学術集会が開催された.

- | | | |
|--------------------------------|---------------|---------------|
| ・第54回北海道地区学術集会(主催:並木 昭義) | 2006年9月9日(土) | 札幌コンベンションセンター |
| ・第63回東北地区学術集会(主催:嶋 武) | 2006年9月16日(土) | 仙台市医師会館 |
| ・第46回関東甲信越・東京支部合同学術集会(主催:一色 淳) | 2006年9月23日(土) | 京王プラザホテル |
| ・東海・北陸支部第4回学術集会(主催:貝沼 関志) | 2006年2月17日(土) | 名古屋国際会議場 |
| ・東海・北陸支部第3回学術集会(主催:山崎 光章) | 2006年9月10日(日) | 富山国際会議場 |
| ・第52回関西支部学術集会(主催:浅田 章) | 2006年9月2日(土) | 大阪国際交流センター |
| ・第43回中国・四国支部学術集会(主催:森田 潔) | 2006年9月23日(土) | 岡山コンベンションセンター |
| ・第44回九州支部学術集会(主催:野口 隆之) | 2006年9月2日(土) | 大分全日空ホテル |

3) 教育講演の開催

第5回リフレッシュャーコースとして2006年6月3日(土)神戸ポートピアホテルにて開催した.危機管理,麻酔の安全,痛み・ペインクリニック,循環系,呼吸器系,特殊麻酔の5コース3講座で,実参加者数1,043名,延べ参加者数は2,734名であった.

2. 学会誌その他の刊行物の発行

1) 学会誌

「Journal of Anesthesia」誌を季刊で4号(Vol.20-No.2~Vol.21-No.1)を発行した.

2) 準学会誌

「麻酔」誌を月間で12号(Vol.54No.4~Vol.55-No.3)を発行した.

3) 学会ニュースレター

社団法人日本麻酔科学会ニュースレターを季刊で4号(Vol.14-No.2~Vol.15-No.1)を発行した.

4) 学術集会抄録およびプログラム

社団法人日本麻酔科学会第53回学術集会抄録(CD-ROM)およびプログラム集を発行した.

5) 会員名簿および年報

2006 年度会員名簿および年報をホームページに掲載した。

6) 教育講演テキスト

2007 年開催の第 5 回リフレッシュャーコーステキストを発行した。

2. 学会認定医等の認定

1) 認定医等の新規認定，資格試験の実施

< 新規認定医 >

2006 年度は，標榜医の審査時期にあわせて，2006 年 4 月・7 月・10 月・2007 年 1 月の計 4 回認定審査を行い，2006 年度新規認定認定医審査合格者数は 294 名となった。

第 1 回申請者：	114 名	合格者：	114 名 (2006 年 4 月 1 日認定)
第 2 回申請者：	66 名	合格者：	66 名 (2006 年 7 月 1 日認定)
第 3 回申請者：	77 名	合格者：	77 名 (2006 年 10 月 1 日認定)
第 4 回申請者：	37 名	合格者：	37 名 (2007 年 1 月 1 日認定)

< 新規専門医 >

2006 年 9 月 29,30 日，10 月 1 日，神戸ポートピアホテルで第 45 回麻酔科専門医認定試験が実施された。2006 年度新規認定専門医試験合格者数は 321 名となった。

旧制度口頭・実技	受験者数：	26 名	合格者：	24 名	合格率：	92%
新制度 3 科目 (筆記・口頭・実技)	受験者数：	356 名	合格者：	272 名	合格率：	76.6%
			実地試験対象者：	1 名 (実地試験の結果合格)		

新制度筆記	受験者数：	10 名	合格者：	2 名	合格率：	20%
口頭	受験者数：	5 名	合格者：	5 名	合格率：	100%
実技	受験者数：	16 名	合格者：	15 名	合格率：	94%
筆記・実技	受験者数：	1 名	合格者：	1 名	合格率：	100%
口頭・実技	受験者数：	1 名	合格者：	1 名	合格率：	100%

< 新規指導医 >

2006 年 10 月 28 日，事務局で 2006 年度麻酔科指導医新規認定の審査会が開催された。麻酔科指導医新規認定者は 267 名 (うち 2006 年度専門医更新対象者 201 名) となった。

< 新規認定病院 >

2006 年度は，申請状況に応じて 4 回認定審査を行い，2006 年度新規認定病院数は 62 施設となった。

第 1 回申請施設：	18 施設	合格施設：	18 施設
第 2 回申請施設：	18 施設	合格施設：	18 施設
第 3 回申請施設：	21 施設	合格施設：	21 施設
第 4 回申請施設：	5 施設	合格施設：	5 施設

2) 認定医等の資格更新審査

2007 年 2 月 2 日，事務局で 2006 年度麻酔科専門医更新予定者の審査会が開催され，麻酔科専門医更新予定者は 180 名となった。また 2007 年 2 月 9 日麻酔科認定医更新申請者の審査会が開催され，認定医更新予定者は 8 名となった。

専門医更新申請者：451 名 認定者：180 名

特例申請者 : 33 名
不認定者 : 3 名 (取消 2 名, 認定医更新 1 名)
資格喪失者 : 36 名 (辞退者 (未提出者も含む) 28 名, 認定医更新 8 名)
指導医不合格者による専門医更新申請者 : 2 名 認定者 : 2 名

< 認定病院更新 >

2007 年 2 月 9 日, 2006 年度麻酔科認定病院更新申請施設の審査会が開催された。麻酔科認定病院更新申請施設は 79 施設であり, 75 施設の認定となった。

3. 研究の奨励及び研究業績の表彰

社団法人日本麻酔科学会学会賞 3 賞 (山村記念賞・青洲賞・若手奨励賞・社会賞) の 2006 年度受賞予定者の選考を行い, 以下のとおり決定した。

1) 山村記念賞

川真田 樹人 (札幌医科大学医学部麻酔学講座)
「手術侵襲による痛みのメカニズム」

2) 青洲賞

森本 康裕 (山口大学医学部附属病院麻酔科蘇生科)
「全身麻酔中の脳波モニタの有用性に関する研究」

3) 若手奨励賞

(基礎)

天谷 文昌 (京都府立医科大学大学院医学研究科麻酔科学教室)
「末梢知覚神経における神経性マリファナ受容体の発現と疼痛治療への応用」

(臨床)

住谷 昌彦 (大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学麻酔集中治療医学講座)
「病的痛みと視覚は相補的である」

4. 研究及び調査の実施

1) 麻酔関連偶発症例調査

麻酔関連偶発症例調査 2004 の一部の解析結果発表 (硬膜外麻酔ならびに脊髄くも膜下麻酔に伴う神経損傷: 麻酔関連偶発症例調査 2004 の集計結果より麻酔 2007;56:469-480)。

偶発症例調査 2005 (2005.1.1 ~ 2005.12.31): 麻酔科認定病院 1060 施設を対象に行い, 808 施設から回答があり, 回収率 76% であった。麻酔台帳からの提出は 143 施設 (18%), 紙での提出は 665 施設 (82%) であった。また, 出血に関連した偶発症例に関する追加調査, 麻酔関連薬剤の投与に関するインシデント調査 2005 を実施。

麻酔偶発症例調査 2006, 改良版麻酔台帳 ver2.0 の配布。麻酔関連薬剤の投与に関するインシデント調査 2006 を実施した。

2) 麻酔関連機器故障情報調査

麻酔関連機器で故障が発生した場合，あるいは規格自体に問題がある機器に関して常時窓口を設け，ホームページを通じて常に情報を収集し，即時にフィードバックした．

3) 麻酔薬および関連薬品等の適正使用に関する調査

適応外の薬剤の要望，薬物乱用者の回復に向けた対応策を検討した．

4) 麻酔関連機器 JIS 規格に関する検討

Respiratory tract humidifiers for medical use Particular requirements for respiratory humidification systems(医用呼吸回路加湿器 - 呼吸加湿システムに関する個別要求事項を翻訳した．

5) Closed Claims Study の推進と研究

インシデントレポートの収集および分析し，予防策を普及した．

6) 周術期肺血栓塞栓症発症例調査

わが国における周術期肺血栓塞栓症の発生状況，予防法，治療法等に関して現状を把握するために，日本麻酔科学会認定病院 1060 施設において，2005 年の周術期肺血栓塞栓症（以下 PTE）に関するアンケート調査を行なった．結果として，556 施設から回答（52%）があり，258 例の周術期 PTE 発症を認めた．発症率は母集団を 556 施設の麻酔科管理件数（922453 件）で除すると，2005 年周術期 PTE 発症頻度は 2.8 人（1 万症例対）であった．結果についてはホームページに掲載済みである．

6. 関連学術団体との連絡及び協力

1) 登録・派遣

日本学術会議，日本医師会，日本医学会，厚生労働省医道審議会標榜医審査会，日本専門医認定制度機構，大学評価・学位授与機構，日本外科学会，外科系医学会社会保険委員会連合，外科関連協議会，日本救急医療財団，日本蘇生協議会，3 学会合同呼吸療法士認定委員会，医療機能評価機構，骨髄移植推進財団等に委員を派遣し，各々の目的と事業に合わせ連携・協力予定．

2) 各種学術集会協賛・後援

日本学術会議シンポジウム，日本臨床麻酔学会市民公開講座，社団法人日本 ME 学会 ME 技術講習会・検定，財団法人日本救急医療財団「救急の日 2006」等，バイオメディカルファジィシステム学会学術集会等，関連協力団体の学術集会および講習会，市民公開講座等を協賛・後援した．

7. 国際的な研究協力の推進

1) 世界麻酔学会

世界麻酔学会理事および各種委員会委員を派遣した．

2) アジア・オーストラレイシア麻酔学会 (AACA)

President, Treasurer を派遣した．2010 年日本大会開催準備のために AACA 実行委員会を設置し，具体的な事業計画を立案した．

3) 海外留学奨励

2006 年度海外留学希望者を通年に渡り募集した．

4) アジアン・シンポジウム

2006 年度開催のアジアン・シンポジウムの企画立案，運営を行った。

8. 普及啓発活動

市民公開講座を 8 回開催し，正しい麻酔科学と医療の普及啓発した。また「麻酔の日」にあわせ毎日新聞，読売新聞全面に広告した。

1) 「麻酔の日 2006」

市民公開講座「身近な麻酔」を 2006 年 10 月 7 日（土），8 日（日）の 2 日間にわたって紙屋町シャレオ中央広場（広島市）で開催した。麻酔科医の役割，麻酔の歴史，当学会の活動内容を説明したパネルの展示，アナウンサーの小川千鶴子氏を司会として招き手術室時の麻酔の様子を麻酔科医とともに解説する「オベステージ」，新生児，小児，成人の人形を用意し心肺蘇生を学んでもらう「蘇生実習」，一般市民からの麻酔関連の質問に麻酔科医が答える「麻酔の相談窓口」の 3 つの企画に絞り実施した。参加者数は 3500 名であった。

2) 各支部学術集会開催時

各支部学術集会開催時あるいは 10 月 13 日「麻酔の日」近辺の日程で，「麻酔」をテーマに計 7 回の市民公開講座を開催した。

9. その他目的を達成するために必要な事業

各種委員会活動を通じて事業目的を達成した。各委員会とも事業内容によって，実務を執行する専門部会を組織し，積極的な事業展開に努めた。詳細は各委員会議事録を参照。

1) 総務委員会

本年度は福井大学若手医師の薬剤乱用による死亡事故に係る調査報告書の作成，実地検証の実施，「無呼吸テストの実施指針」の作成，診療報酬についての渉外活動，中長期計画の作成、公益認定法人化に向けての準備、情報収集を行った。その他，代議員，理事，監事，副会長選任選挙，学会内部の総務、事務局内の総務にかかわる事項も審議・執行した。

将来構想検討専門部会では，中・長期計画の作成を行った。

社会保険検討専門部会では，平成 20 年度診療報酬改定に向けて改定案の検討，外保連への要望作成，診療報酬に関する質問の対応，学術集会時のシンポジウム，相談ブースの開催，企画等を行った。

2006 年度選挙については，2007 年度～2008 年度代議員，理事，監事選任選挙，2010 年度副会長選出選挙を実施した。

2) 財務委員会

予算・決算に関する事項，資産の管理・運営に関する事項，各種事業費に関する事項，その他財務に関する事項について協議，答申，執行した。

- ・ 予算書・決算書の作成
- ・ 貸借対照表・財産目録・正味財産増減計算書の作成
- ・ 事業費・管理費のバランスおよび支部会収支計算書と事業報告のチェック
- ・ 基金・引当金の設定と管理
- ・ 特別会計の学術集会会計，各支部会計に関する連結決算・予算表の作成
- ・ 税金の支払い，周知

3) 学術委員会

本年度は，機関誌の編集・発行に関する事項，学術集会の運営に関する事項，麻酔科学用語に関する

事項，学会賞に関する事項等を中心課題として協議，答申，執行を行なった．第 54 回学術集会の査読に関して会員から意見があり、査読のシステムについて検討することとした。

機関紙専門部会では，*Journal of Anesthesia* の引用を増やすべく，JA シンポジウムを企画した．学術集会企画専門部会では，学術集会の運営の方針，今後の学術集会プログラムのテーマの検討を行った．学術集会電子抄録開発ワーキンググループの活動は特になかった．

4) 倫理委員会

本年度は，麻酔科関連領域の医学・医療の倫理に関する事項を検討した．

- ・薬物使用に関する医師死亡事故，麻酔誌の論文捏造，麻酔器購入競売入札妨害について倫理調査委員会を結成し，審議をおこなった．

5) 教育委員会

本年度は，新認定制度実施に伴う問題点の整備，専門医資格喪失者の再認定制度の会則の変更，教育ガイドラインの改定(初期研修医達成目標，後期研修医達成目標，指導者向けマニュアルの追加)，生涯教育ハンドブック改定版作成，第 5 回リフレッシュャーコースの実施，第 6 回リフレッシュャーコースの立案等を行った．

認定審査委員会は認定医，専門医(第 45 回専門医認定試験実施)，指導医，認定病院の審査，認定を行った．

6) 安全委員会

本年度は，麻酔関連のリスクマネジメントに関する事項について協議，答申，執行した．事業内容をトータルに把握し，国民のための安全な医療を提供することを目標とした．医療安全における問題の所在をあきらかにするために全国規模の実態調査を実施し，医療現場に向けた現状のアナウンスおよび改善・防止策のフィードバックを行なった．データベース(統計調査)事業では，麻酔台帳事業(使用状況の調査，インストラクターを含めた新バージョンの配布，定量的な統計解析目的とした各病院からの合併症項目の調査実施)肺塞栓アンケート2006の実施，回収，CCS報告書の検討を行った．ハード(機器)関連対策事業では，麻酔器の定期点検指針作成に向けた検討，機器故障情報提供のホームページによる公表，JIS原案(加湿器)の作成を行った．ソフト(手技)関連対策事業では，安全な中心静脈カテーテル挿入・管理のための手引き，危機的出血ガイドラインの作成公表を行った．薬剤関連事業では，薬剤乱用防止施策の検討(ポスターの配布，薬剤依存症教育のホームページ掲載，相談窓口の設置、実態調査)，薬剤の保険適応要望(ケタミン，エフェドリンに関する除外)を行った．以上4つの事業への取り組みにあたっては，安全委員会直轄の6つのワーキンググループ(偶発症例調査ワーキンググループ，麻酔機器安全対策ワーキンググループ，肺血栓塞栓症ワーキンググループ，CCSワーキンググループ，麻酔手技における事故防止対策調査ワーキンググループ，医薬品適正評価ワーキンググループ)を組織し事業を振り分けた．

7) 国際交流委員会

国外の諸団体との交流を促進する目的に沿って事業を行った．AACA2010 に向けてアジア諸国との交流をはかるため，第 53 回学術集会時にアジアシンポジウムを開催し，第 54 回学術集会時同企画を立案した．AACA2010 実行委員会では，AACA2006 シンガポール大会での広報活動，運営方法の視察検討を行い今後の方針を検討した．Trauma Care2008 行委員会では，チリ大会での広報活動，運営方法の視察検討を行い今後の方針を検討した．2006 年度海外留学希望者を通年に渡り募集

した。2016年のWCA誘致について検討し、代議員にパブリックコメントを求めた。

8) 関連領域検討委員会

麻酔科医の活躍の場として、救急医療、集中治療、ペインクリニック、緩和医療、産科領域の麻酔を紹介し麻酔科医のフィールドの広さを多くの医師、学生に周知し、学会としてよりよい業務環境を整える目的に沿って事業を行った。各領域での現状、問題点を挙げた。第54回学術集会でこれらの領域についてシンポジウム形式で公表する。

救急医療・心肺蘇生法専門部会では、下記の日程で会員を中心としたコース受講機会の拡大、インストラクターの養成を行なった。ガイドライン2005発行に伴う日本版ガイドラインの検討、ガイドライン2005翻訳、監修、救急救命士の気管挿管実績の実態調査、結果解析を行った。

集中治療、ペインクリニック領域、新たに緩和医療領域、産科麻酔領域のワーキンググループを置き、それらに係わる麻酔科医の現状について検討、調査した。

2006年6月3日	AHA	ACLS インストラクターコース	神戸ポートピアホテル
2006年7月15日	AHA	BLS プロバイダーコース	日本麻酔科学学会会議室
2006年9月16日	AHA	BLS プロバイダーコース	日本麻酔科学学会会議室
2006年10月14日	AHA	BLS プロバイダーコース	日本麻酔科学学会会議室
2006年11月11日	AHA	BLS プロバイダーコース	日本麻酔科学学会会議室
2006年11月18-19日	AHA	ACLS プロバイダーコース	広島市民病院
2006年11月25-26日	AHA	ACLS プロバイダーコース	品川イーストワンタワー貸会議室
2006年12月9日	AHA	BLS プロバイダーコース	日本麻酔科学学会会議室
2007年2月10日	AHA	BLS プロバイダーコース	日本麻酔科学学会会議室

9) 広報委員会

広報委員会では、一般市民に対する広報活動としての継続した市民講座の開催、新聞広告、江川晴氏による麻酔科医を主人公とした小説の原稿作成作業、ドラマ作成、学術集会時、民間業者を媒体とした学生、スーパーローテーターに対する継続的な働きかけ、ニューズレターの編集・発行に関する事項、ホームページの運営等に関わる事項等を協議、答申した。

市民公開講座「麻酔の日2006」を企画・運営し、2006年10月7日(土)、8日(日)紙屋町シャレオ中央広場(広島市)で開催した。一般市民約3500名が参加した。

民間医局主催による診療科別プレゼンテーション参加、麻酔科ブース出展は以下の日程で行った。

2006年6月4日	研修医のための後期研修病院合同セミナー				
場所:	横浜	参加者:	530名	麻酔科ブース来訪者数:	18名
2006年7月14日	医学生のための臨床研修病院合同セミナー				
場所:	東京	参加者:	1310名	麻酔科ブース(1時間のみ)来訪者数:	7名
2006年8月6日	研修医のための後期研修病院合同セミナー				
場所:	大阪	参加者:	317名	麻酔科ブース来訪者数:	20名
2006年8月19日	「臨床研修終了後」研修等に関する合同説明会				
場所:	仙台	参加者:	70名	麻酔科ブース来訪者数:	3名

ニューズレターは、年間4回編集、発行した。麻酔啓発用小冊子の内容を検討した。学術集会時には、引き続き、学生招待、スーパーローテーター企画を行う。テーマ別にシンポジウム、相談ブースを企画する。

10) 支部管理委員会

支部事業，会計の運営を円滑にするために各支部での問題点を整理した．支部長，支部事務局の職務の明確化，支部事務局のインフラ整備，支部専従職員を置いた．

以 上